

トライアングル

発行日／平成 30（2018）年 7 月 発行／一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者／松上利男 編集／松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

平成30年6月7日（木）、大阪府久宝寺緑地公園陸上競技場で「第52回大阪フレンドシップソフトボール大会」が行われました。昨年までは「大阪府知的障がい児・者合同ソフトボール大会」という名称でしたが、より親しみを持っていたただけるように「大阪フレンドシップソフトボール大会」に変更となりました。

大会当日は、連日の雨の影響でグラウンドの状態が悪く、開催されるのか



第52回大阪フレンドシップソフトボール大会 ～親しみを感じてもらえる大会を目指して～

心配しましたが、実行委員会の皆様による朝早くからの懸命な整備のおかげで、無事に大会を開催することができました。

各チームからの「勝敗に関係なく、ソフトボールを楽しみたい」「強いチームと対戦して、日頃の練習の成果を試したい」という思いを受けて、今年は従来通りのリーグ戦の他に、新たにトーナメント方式を導入しました。

大会は、「よっしゃー！」と気合の入った声でバッターボックスに立つ選手や、点を取らせまいと真剣な表情で投げられるピッチャー達の熱戦、「がんばれー!!」というチーム関係者からの応援で大いに盛り上がっていました。

大会に参加された選手の方に感想を聞かせて頂きました。「ホームランが打てた！」「とても楽しかった」と試合の興奮が冷めない様子で熱く話される方、「昔ピッチャーをやっていた」と懐かしそうに当時の話をされる方がおられました。

●A～C リーグは4チームによるトーナメント方式、D～F リーグは3チームによるリーグ戦

リーグ	優勝	準優勝	3 位	4 位
A	支援センターさくら	わららか	恵生会クリエイトしき	熊取療育園ベアーズ
B	敷津浦学園	サンライズ	向陽 ALLSTARS	つばさアスレックス
C	支援センターしらさぎ	第二博愛	ガッツとうふく	いわき生野学園
D	KIRARI' S	チーム光生会	四条囃福祉会	
E	中津学園	科長の郷	がつつせんぼく	
F	月の輪学院	さらの郷さーず	第二わらしべ園	

第52回大阪フレンドシップソフトボール大会 ～親しみを感じてもらえる大会を目指して～	1
●ぶらり施設訪問記● グループホーム北条の家	3

●ちよつとつばきリレー● おおざとの赤いやね サービス管理責任者 樹 宣明	3
●紹介！ユニーク自主製品● 多機能型事業所あすなろ 豊中・緑地名物「あすなろ麺」	4
ニュース／レポート	4



今回の大会では、昨年より3チームが増えて、21チームが集まりました。久しぶりに参加されたチームや、初参加したチームの中で、「第二わらしべ園」と「月の輪学院」にインタビューを行いました。

第二わらしべ園からは西畠利彦氏にお話を伺いました。「以前、実行委員としてソフトボール大会に携り、第二わらしべ園も参加したいという思いがありました。しかし、選手の人数が集まらず悩んでいたところ、他事業所から合同チームとして参加の打診があり、参加することになりました」とのことでした。また「選手の様子を見ると、大会に向けて練習から楽しんでいる様子でしたが、選手以外にも事業所の関係者による応援が選手の頑張りを奮い立たせ、選手だけではなく職員も楽しむことができました」「勝敗に捉われず、参加することの意義を大切にしながら、大会に臨みたい」と話されていました。

今大会では残念ながら得点を奪うことができませんでしたが、選手からは「また参加して、今度こそ得点を取って勝ちたい」と来年に向けて目標を話す言葉がありました。

月の輪学院からは山本昌基氏にお話

を伺いました。「以前はソフトボール大会に参加していましたが、入所している利用者がソフトボールできる状態ではなく、最近は参加を見合わせていました。近年、職員体制を刷新することで、事業所内の雰囲気が変わり、再びソフトボール大会に参加したいという思いから、今大会参加させて頂くことになりました」とのことでした。また「大会に向けて練習する機会が少なかったが、選手は思い思いにバットを振ったり、一生懸命にボールを追いかける様子があり、楽しんで取り組んでいる」とのことでした。

選手の方に感想を伺うと、「楽しかった!」という声が多く聞かれ、来年の大会参加への意欲が見られました。

最後に、大会に出場したいが選手が集まらず悩んでいる事業所があるかもしれません。今大会のように、他の事業所が手を取り合い合同チームとして出場も可能です。今年も選手の方から「ソフトボール大会を続けて欲しい」という意見が聞かれ、改めてソフトボール大会を続けていくことの意義を発信していきたいと感じた取材となりました。

(広報委員 上月直樹、吉村周二)

大阪フレンドシップソフトボール大会には特別ルールが設けられています。その一例を紹介します。

- 試合は5イニング制、最長50分となります。
※ 50分が経過した段階のイニングで打ち切り。
- 試合終了後、同点であれば、両チームの選手代表3名によるじゃんけんで、先に2勝したチームの勝利となります。時間超過で、試合が打ちきられた場合も同様です。
- 3回以降、7点差でコールドゲームとなります。
- 職員も出場可能であるが、最大4名（但し男性は2名）以内とする。
- 職員の投手、内野守備は認められません。（捕手は可能です）
- 四死球や盗塁、振り逃げは認められません。

特別ルールの他にも各リーグで独自ルールを作ることができます。例えば、歩行が不安定な選手がヒットを打たれた場合には、他の選手に代走を認めるリーグもありました。この他にも特別ルールがありますが、ぜひ参考にして参加してみませんか？



社会福祉法人四条囀福祉会

グループホーム北条の家



訪問日：

平成 30 年 6 月 19 日

取 材：

かしま障害者センターLink 水津 由依
大和川園 杉 扶早子

この度、大阪府大東市にある社会福祉法人四条囀福祉会グループホーム北条の家を訪ねました。四条囀福祉会は、昭和63年に河内手をつなぐ親の会が発足。平成2年に法人を設立し、「ふつうに暮らせる地域づくり」の思いから出来た事業所です。おもに四條囀市、大東市を拠点としグループホームや生活介護事業所、入所支援を行っています。この取材では、グループホームを運営していく上で大切にしていることや、地域とのつながりについて、障害者支援施設『なわて更生園(法人本部)』園長、上原文裕さん、支援担当者の尾座さんにお話を伺いました。

■基本理念と大切にしていること

四条囀福祉会の基本理念は、『知的障がいの子を持った親たちが本人たちの幸せを願ってつくりました。この人たちが一人ひとりふつうにくらせる地域づくりに努めます』です。理念にあるように、利用者一人ひとりが普通に暮らせる地域づくりを最も大切にしています。取材の前日、大阪北部を震源地とした地震が発生しました。利用者の安全確認や過ごし方など大変だった。普段と違う生活の流れになったことから利用者の方の不安な気持ちや緊張が見られたと伺いました。しかし、市からの被害状況の確認もありなんとか生活することが出来たと伺いました。当たり前ですが、利用者の

方が安心して暮らしていける環境を整えることが必要不可欠であると話を伺いあらためて感じました。

■地域とのつながり

グループホーム設立運営について話を伺うと、「利用者の方のニーズはあるもののすぐに出来るものではない。地域住民とのつながりや理解が必要になってくる」と話されていました。現在、大東市や四條囀市を中心として活動しているが、設立する際は門真市、寝屋川市、交野市といった近隣市街地も視野に入れたそうです。しかし、スプリンクラーや自動火災報知設備の関係により難点があったようです。また、設立に向けて内覧や自治会、町会への挨拶をすることで地域住民の方との理解を深めたことでした。現在では、ホームに帰宅される際や、外出で近隣のコンビニやスーパー、商業施設にも通っており地域とのつながりについて話されていました。

最後に、上原園長は『人と人が繋がり、関わり合う仕事だということ』と話されていました。しかし『職員の人材確保』が課題と話されていました。A-1(人工知能)の機械の進化が著しい昨今、介護業界でも様々な介護器具が発展しても、『人材確保』はこの事業所でも大きな課題であるとあらためて感じました。

ちょっとつぶやき...リレー

おおざとの赤いやね サービス管理責任者

樹 宣明

私は平成21年より社会福祉法人四幸舎和会「障がい者支援施設くりのみ園」へ入職しました。生活支援員として4年を経て、現在は生活介護事業所(通所施設)「おおざとの赤いやね」でサービス管理責任者として勤務しています。

入職するまで成人の知的障がいのある方々と接する機会が少なく、どのように支援をしていけば良いか戸惑いながら先輩職員へ何度も相談したことを思い出します。また、自閉症の方との接し方も戸惑いの毎日で、なぜかどうして、という日々が多くありました。けども、障がいの理解を深めていくことで対応の仕方や支援の考え方が自分の中で少しずつ整理できたように感じます。

支援で大切にしていることは、利用されている方の想いをどのように支援計画へ反映させていくかを皆と一緒に考えていくことです。人生の歩み方は様々で何が正解なのか、途方に暮れることも多くあります。だからこそチームで理解を深め、考え、悩み、問い続けながらその方らしい生活を支えていくことを大切にしています。

これからも利用されている皆さんが「わたしらしく」人生の歩みを支えていけるよう一人ひとりの理解を深め、考え続けたらいいと思います。

次回は「みきの路」の望月 順一さんをお願いします



紹介！
ユニーク
自主製品

多機能型事業所あすなる 豊中・緑地名物「あすなる麺」



【モンドセレクトシオン金賞4回受賞】
インターネット販売、インスタグラム
サービス開始

取材…茨木学園 高原良太
さつき園 吉岡裕幸

●生麺 1人前

1パック 100 円

(つゆ別売り 1 個 40 円)

賞味期限：製造日から 3 日

●半生麺 3人前

1箱 450 円 (つゆ付き)

賞味期限：製造日から 3 カ月

うどんの本場「さぬき」で修業した味を、豊中・緑地名物として新たな名物作りに挑戦し続けています。厳選された小麦粉と、大山の天然水、鳴門の塩を使い、添加物を一切使用しない安全安心の無添加にこだわっています。

平成 19 年 9 月から本格的なパッケージ化にするため、生麺は利用者さんが描いた字体を使い、化粧箱には緑地公園のイメージ色(緑)を取り入れ、商品の付加価値にしています。

作業工程は細かく分担化する事で、利用者さんが 1 人 1 人関わりやすいように工夫をし、主体的に取り組んでいます。



インスタグラム



インターネット販売

TREND NEWS

地域生活支援拠点等の整備について

喫緊の課題とされる障害者の重度高齢化や親亡き後に備えるという課題を見据え、地域全体で障害者の生活を支える為のサービス体制の整備が主な目的です。運営に当たっては、総合調整を図るコーディネーターの配置が必要になると共に、拠点等整備の機能の柱として、①相談機能、②緊急時の受入れと対応機能、③体験利用の機会と場の確保の機能、④専門的人材の確保と養成機能、⑤地域の体制作りの機能、以上の 5 つの機能を原則備えなければなりません。

平成 30 年度の障害福祉サービス等報酬改定では、5 つの機能の強化に対して、報酬加算の新設や、既存報酬に対する単価アップがなされました。

国の示す第 5 期障害福祉計画には平成 32 年度末までに「各市町村又は各障害福祉圏域に少なくとも 1 か所を整備する事」が基本と明記されています。「多機能拠点型」、「面的整備型」に併せて、実情に合わせた「多機能+面的」での実施も行われていますが、全国的に見ても整備状況はまだまだ進んでいないのが現状です。

障害者のみならず、地域全体にとってのセーフティネット機能、且つワンストップ機能を十分に発揮出来るような拠点等の整備が、早急に目標値に近付けるようにしたいものです。

(広報委員長 松嶋桂子)

REPORT

総会・研修会・意見交換会を開催

平成 30 年 5 月 30 日(水) ホテルアウイーナ大阪にて一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総

会を開催致しました。

当日の出席者 91 名と、書面による議決権行使 64 名、計 155 会員事業所の承認を得て、全ての議案が承認されました。

総会後の研修会は 114 名が参加され、前半に大阪府の行政報告として、第 4 次障がい者福祉計画と大阪府における虐待防止・対応状況について説明いただきました。後半は又村あおい氏の「これからの障がい福祉サービスの動向について」というご講演でした。その後は数年ぶりに意見交換会を開催し、53 名が 4 ブロックに分かれて名刺交換や意見交換をしました。

今年度も、皆様のご協力のもと、各部会・委員会活動の充実に努め、研修会開催やホームページでの情報提供など進めます。引き続きご支援、ご協力をお願い致します。

(事務局長 中川博)

広報委員長挨拶

今年 2 月より、第二わらしべ園の丸山委員長の退任に伴い、後任の広報委員長に就任しました松嶋桂子(社会福祉法人「摂津有和会」理事長)です。どうぞよろしくお願ひします。

広報委員会は、これまでも広報委員長だった吉村周一さん、高原良太さん、水津由依さん、杉扶早子さん、吉岡裕幸さんに引き続き参加していただき、新たに参加していただく上月直樹さんに加え、機関紙「トライアングル」やホームページを通じて、協会の方のもとより福祉に関心のある方々に広く情報を発信していきたいと考えています。

これからもより一層充実した広報活動を進めていきたいと考えておりますので、皆様のご声援、ご協力をよろしくお願い致します。